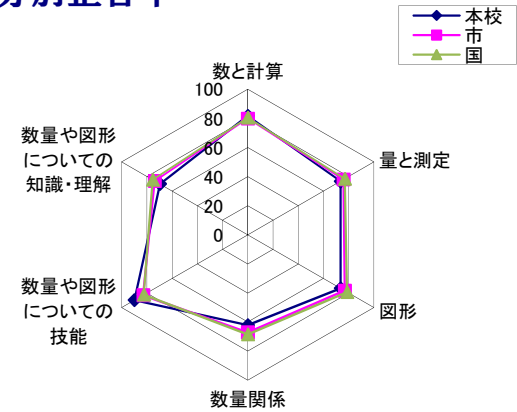


宇都宮市立海道小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

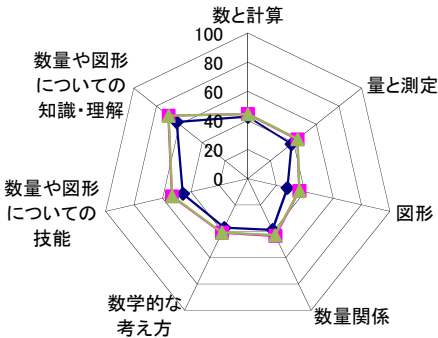
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	81.7	79.9	80.5
	量と測定	73.6	75.9	77.0
	図形	73.6	76.9	78.8
	数量関係	62.0	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	90.0	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	69.7	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	42.6	44.5	44.4
	量と測定	38.3	43.5	43.7
	図形	27.8	36.2	36.3
	数量関係	38.9	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	37.3	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	45.8	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	62.5	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数Aが81.7%で全国と比べて1.2ポイント上回る。算数Bは42.6%で全国と比べて1.8ポイント下回る。 ○ 小数の加法と除法の計算と不等号の問題がよくできている。授業を中心に、朝の学習や家庭学習で前学年の復習を行ってきた成果と考えられる。 ● 小数点のある数の大小や数値の意味の理解に課題が見られる。	・ 基礎的基本的な知識・技能の定着を今後も継続して授業を中心に行っていく。また、家庭学習や朝の学習で復習することを継続的に言い、定着を図る。 ・ 授業の中で数直線を使って小数点のある数の大小関係を理解させるようにする。 ・ 生活の中で使われている数に注目させ、その数が表す意味を理解させるようにする。
量と測定	平均正答率は、算数Aが73.6%で全国と比べて3.4ポイント下回る。算数Bは38.3%で、全国と比べてポイント5.4下回る。 ● 図形や立体の基礎的基本的な理解、単位量当たりの大きさや割合の問題への対処法に課題が見られる。	・ ドリルやプリント等で、三角形の底辺に対する高さの振り返ること基礎基本の定着を図る。 ・ 単位量の大きさや割合の問題を授業の中に取り入れ、解き方を理解させるようにする。 ・ 授業で多角形と内角の関係を復習し、理由を考えさせることで内角から多角形の種類を識別する力を身に付けるようにする。
図形	平均正答率は、算数Aが73.6%で全国と比べて5.2ポイント下回る。算数Bは27.8%で全国と比べて8.5ポイント下回る。 ● 図形に内接する円のかき方、立体の辺と面の関係に課題が見られる。	・ 立体模型やデジタル教科書を活用して、直方体における面と面、面と辺の関係を理解させるようにする。 ・ 授業で立体模型等を利用して正多角形の性質を理解させる。 ・ 習熟度別学習や個別学習において、個に応じた指導を行い、図形への理解を深めるようにする。
数量関係	平均正答率は、算数Aが62.0%で全国と比べて6.5ポイント下回る。算数Bは38.9%で、全国と比べて4.0ポイント下回る。 ● 数直線を利用したり、必要な情報を判断したりして解決することに課題が見られる。	・ 授業で単位量当たりの大きさや割合等、数量関係の問題を数直線や図を使って表すことを行わせ、何を求めている問題かを理解させてから取り組ませる。 ・ 授業に一つの問題を小集団で解かせる学習を取り入れ、児童一人一人の理解を確かなものにする。